

平成 30 年度 第 1 回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	平成 30 年 5 月 18 日 (金) 13:30~15:20 政策審議室		
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について ・平成 29 年度 にぎわい振興事業について ・平成 30 年度 にぎわい振興事業について 		
出席委員	羽田会長、三田委員、尾崎委員、門脇委員、長委員、半澤委員、伊藤委員、遠藤委員 計 8 名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0 名
事務局・説明者等	経済環境部長 清田 商工課 主幹(兼)課長事務代理 安宅 にぎわい振興係 係長 佐藤、主事補 花上		

案 件

(1) 「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について

委員了承

(2) 平成 29 年度 にぎわい振興事業について

◆実証実験ツアーの検証と今後について

◆名店・名製品の選定事業について

◆にぎわい案内看板の設置完了について

委員了承

(3) 平成 30 年度 にぎわい振興事業について

◆実証実験ツアーについて

委 員：最終的には民間企業による商品化ということを目指していた。

事 務 局：市が 40%程度の金額を負担しないと、ツアー自体が成り立たないところがある。参加者のアンケートでは、今の料金であれば参加するという方がほとんどであり、正規の金額は高いと感じる方が多い。海老名市内だけのツアー商品化は厳しいと考えている。

委 員：今日の会議で、ある程度の方向性を決め、今後のバスツアーの目的や位置づけを再度確認しましょう。

委 員：過去のバスツアーのアンケート結果で十分検証出来ている。イチゴ・見学・体験が人気であるが、今回出来たとしてもイチゴの時期は終わってしまう。バスツアーにお金を使うよりもえび〜にゃのお誕生日イベントのケーキ作りなど、親子で参加できる市内のイベントにお金を使ったほうがいいと思う。

委 員：市の負担額は概ね 40%で、今回のツアーでは 1 人あたり 2,000 円程の負担。効率が悪いと思う。今後もこの比率が変えられないのであれば、おのずと方

向性が見えてくるのではないか。

委員：市で抱えて実施していくものではないと思う。市内の回遊性が目的ということであれば、地元の民間企業に任せたいほうが良いのでは。段階を重ねるごとに、企業努力によって得てくるものがある。

委員：回遊性のパッケージとして50人程度に向けての実施は、市のPRとしては正直あまり意味がないと思う。地方の自治体の旅行で、例えば、山のハイキングの際、出発地までは車で行き、歩くコースをA・B・Cなどに分けて回遊。多くの人に来てもらえるようなパッケージを作って各自回遊性のプログラムを作成するのが効果的。やりたいことは「はとバス」なのかな？とも思う。成り立たない気がする。

委員：目的がはっきりしていない。旅行会社への商品化をしない方向であればいいが、そうするとバスツアーを何のためにやるのかということになる。市役所出発・解散にするのは完全に市民向けのプログラムである。結果的にほとんどが市民参加になっている。市の魅力を再発見してもらうため、名店・名産品をセットにして新規認定業者のところのコースを増やす。市民にとってはいいと思う。でも市外から来てほしい・定住人口を増やすことが目的であれば、市役所出発はだめ。比率を逆転させないと意味がない。モニターツアーを実施しているところがあるので、参考にしては。ぽどやサンケイリビングは広告掲載での告知が目的である。都心からの出発で土曜日の1日、珍しい場所であればすぐ埋まると思う。検証はもう十分。市民向けと市外向けではやり方が全然違う。ぶれてしまっている。市民のためにやるなら他のにぎわい事業に当てたほうがいいと思う。間違いはないけれどお金ももたないし実施する意味がない。

委員：全労済では保険加入者の感謝ツアーがあり、川崎・横浜・県央地区で選択することが多い。

県央地区では海老名のストロベリーロードいつも行くくらい人気。パーツでの商品化はいいと思う。市内を回るだけでなく周辺の地域も巻き込む。

委員：委員の皆様の意見を聞くと、やはり目的をはっきりさせるべき。

対象を市内向けか市外向けか。今回のツアー内容の作りはおのずと市内向け。市民にもっと海老名の魅力を知ってもらい、愛着を持ってもらうことで「住みたい 住み続けたいまち 海老名」につながってくる。そういう位置づけで行っていくのか。コストパフォーマンスを考えると他のイベントで使う方がいい気もする。もしくは、回遊性の促進をベースに考えるのであれば、海老名市に来られる人＝市外の人へ発信。海老名に来てもらうということは、ターゲットはおのずと市外になる。告知含めて旅行会社へお願いし、駅周辺ではなく、市内を広く回っていただくためにはどのようなコースにするか検証する。近隣の自治体との協力も必要。今回のツアーは市民に魅力を深堀りし

てもらおうということで良いのではないか。

事務局：夏は、鮎の掴み取りやポニーとのふれあいなど親子で夏休みの思い出になるような企画、冬はフラワーアレンジメントなどパーツごとで検討している。タクシー会社の提案でスイーツツアーの声もある。商品化も可能かと思う。

委員：集まるのが市民ばかりだから改善したいとの話ではなかったか。話が変わってきている。再度検討する必要がある。

事務局：皆様の意見を聞いて、市外の人々を呼ぶために、広告やプランを再度検討していきたい。シティプロモーション課では新しく営業戦略係ができたので、連携していけたらと思う。

委員：バスよりもタクシーの方が回遊性の目的にはいいと思う。キャッチコピーのように「ちょっと海老名」に来た人に向けて。

委員：海老名駅は3線通っている。鉄道会社と連携してパンフレットを置いてスタンプラリーを実施して、商品をプレゼントする企画などどうか。

委員：意見がたくさん出た。あとは事務局で改めて整理していただければ、相談のりります。

事務局：実証実験ツアーについては、皆様からいただいた意見を考慮して、今後実施していくツアーに反映させていきたいと思うので、改めて個別に意見をいただき企画していきたい。

◆名店・名産品の認定事業について

委員：頑張っている事業だと思う。現在、市内には特産品・名産品等が19個ある。名店・名産品の任期が3年。商工会議所のものと判別が難しい。最初の3年は補助とアピールの期間。3年以降どうするか。よりよいものを「永世名人」ではないがずっと残しておく。3年の区切りとそれ以降のルールを考えていく必要があるのではないか。

委員：名店・名産品を選べなくなってきた。自薦が少ない。隠れた商品や店が結構あるので、商工会議所と連携してエントリーを増やす。

事務局：商工会議所にもエントリー事業者の告知等のご協力をいただいている。自薦であるがために、自分の店は出なくていいという店もある。

委員：イベントで市民に呼びかけるのは？

事務局：検討してみます。

委員：海老名の代表のものを世に出していくのはいいこと。市民目線での疑問ですが、海老寿 café が選ばれた理由は？

事務局：隠れ家的なカフェがお店のキャッチコピー。若者や主婦に人気のお店。

委員：総合的に？

事務局：名店で認定。地場産のものを使っているということで“えびならしき”という点でも評価を得ていた。

- 委員：同じ店がエントリーもどうなのだろう。選考の仕方も考えた方がいいのでは。年々増えていくことはいいが、減りすぎてもよくない。
- 委員：自薦を謙遜しているのか。自分のところは対象にならないでいいという認識かどうなのか。
- 事務局：当初は市内の老舗店舗にはお声かけをした。中には自分のところはいいと答えるところもあった。
- 委員：3つの開発委員会とこの事業の整合性がない。整理が必要。また、エントリーが少ないのもどうなのか。少ないなら毎年は不要。期間を空けるなど全体的に再検討が必要だと思う。
- 委員：また市民目線になってしまうが、世界でもSNSなどの情報は信頼感が一番大事だと思う。選定事業がどれだけ信頼感があるかがベースにあって、そのためには何があるか考えたら良いと思う。
- 委員：エントリーが少ないのはどうしてか？また、会議所の取り組みとの違いが不鮮明である。相談した方がよい。
- 事務局：この事業は3年間で30店舗・30品の認定を目標に実施してきた。今年度、すでに反応のある店舗があるので、今年後は実施させていただければと思う。エントリーのPR方法など再度検討したい。

◆海老名市名店・名産品認定事業者等応援事業補助金について

補助金は特になし

◆海老名市にぎわいキャッチコピーの活用について

- 委員：封筒に印刷されたのをよく見る。「住みたい 住み続けたい まち海老名」がメインなのもわかるが、キャッチコピーもどんどんやるべき。
- 事務局：封筒用のスタンプを作った。海老名SAが50周年を迎え、先日、シティプロモーション課と一緒に、名店・名産品やキャッチコピー等を紹介する小さなイベントを5月13日に実施した。同時にアンケートも行いサービスエリアしか知らない人が大勢であった。今後もキャッチコピーとともにPRしていければと思う。小田急線のつり革にも広告を掲載予定。エコバッグをプレゼントする仕掛けづくりもしている。
- 委員：イチゴと七重の塔は目に付くからいいと思う。後のふたつはどこかわからない。でも、若者定住事業のポスターは目についた。効果はあると思う。キャッチコピーはこの会議で決まったという言い方をされた。意見を絞っただけであり、そういうわけではない。
- 委員：審議会とは諮問を受けたものに対して方針を決める機関。意見はまとめて決めるが、最終的に決定するのは行政である。あくまでも付属機関。
- 委員：審議会では選んだだけ。今後は、発案者の意見だけではなく、よりよいもの

を生み出すために会議で出た意見も参考にしてほしい。

委員：西口のイベント内容はもう決まっているのか。

事務局：場所は確定ではないが、西口を考えていた。エリマネと調整していく。

委員：これから新しい商品を販売するのでラベルに入れてPRもできる。キャッチコピーを一般的に使用できるか。

事務局：ぜひPRをお願いしたい。

以上